

Ⅱ 回答者（調査対象者）の属性

1 在宅者

在宅者調査の対象者（A票-身体障害者手帳所持者、B票-療育手帳所持者、C票-精神保健福祉手帳所持者）である回答者の属性（年齢、障害の状態、障害者手帳の交付状況）は、（1）～（3）のとおりである。A票、B票、C票の回答者を合わせて全体として集計し、各票の回答をクロス集計のかたちで示している。

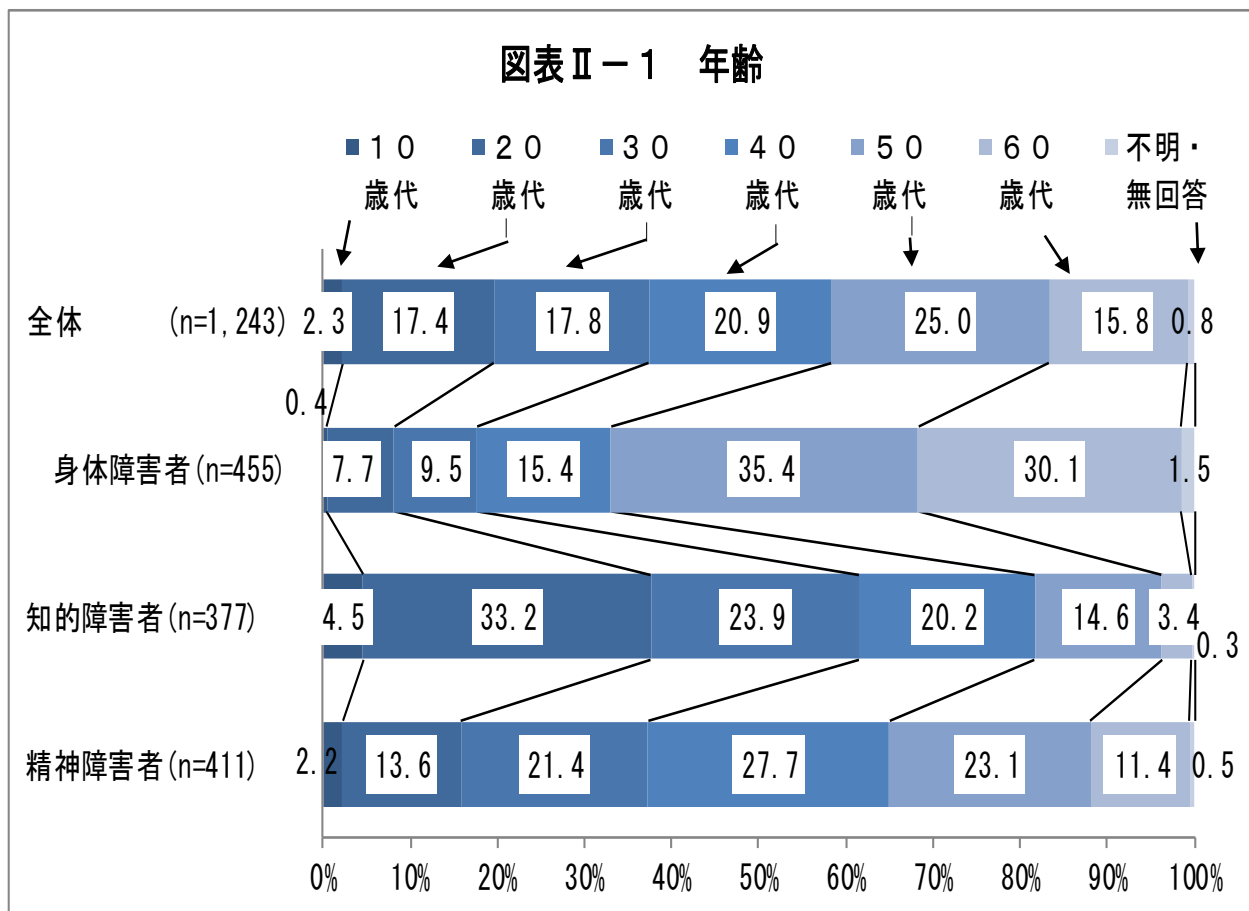
（1）年齢（問1）

全体の傾向：割合の高い順に、「50歳代」「40歳代」「30歳代」「20歳代」「60歳代」「10歳代」である。

身体障害者：「50歳代」は35.4%、「60歳代」は30.1%である。高齢層が多い。

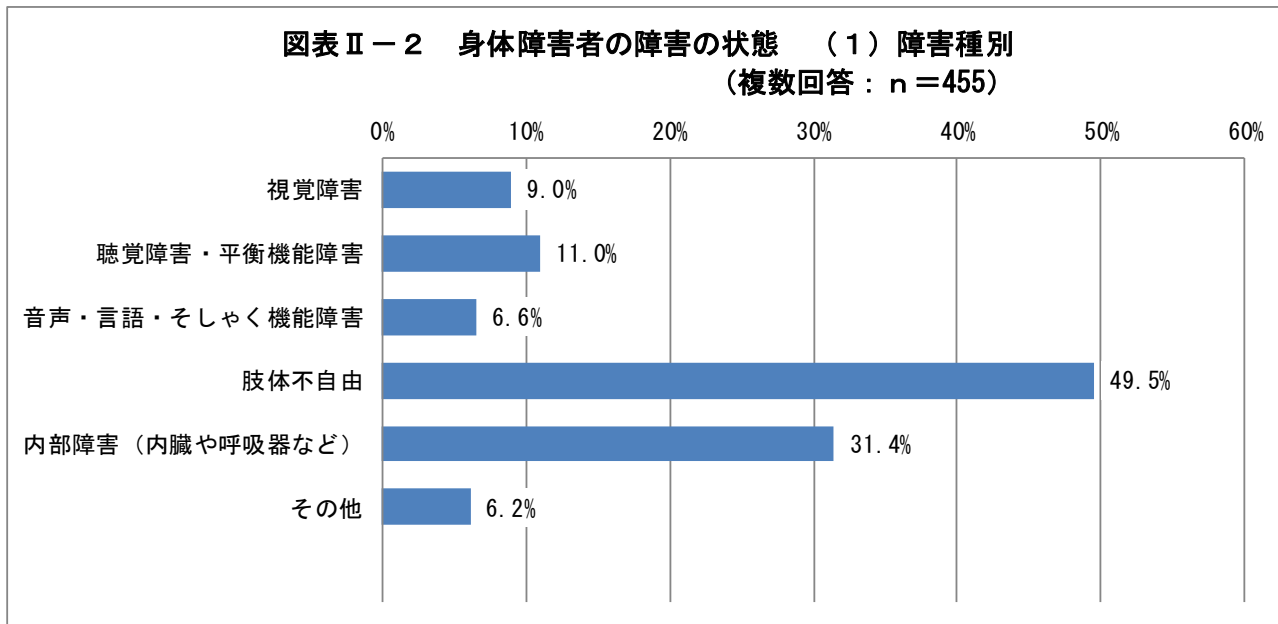
知的障害者：「20歳代」は33.2%、「30歳代」は23.9%、「40歳代」は20.2%である。若年層が多い。

精神障害者：「40歳代」は27.7%、「50歳代」は23.1%、「30歳代」は21.4%である。中年層が多い。



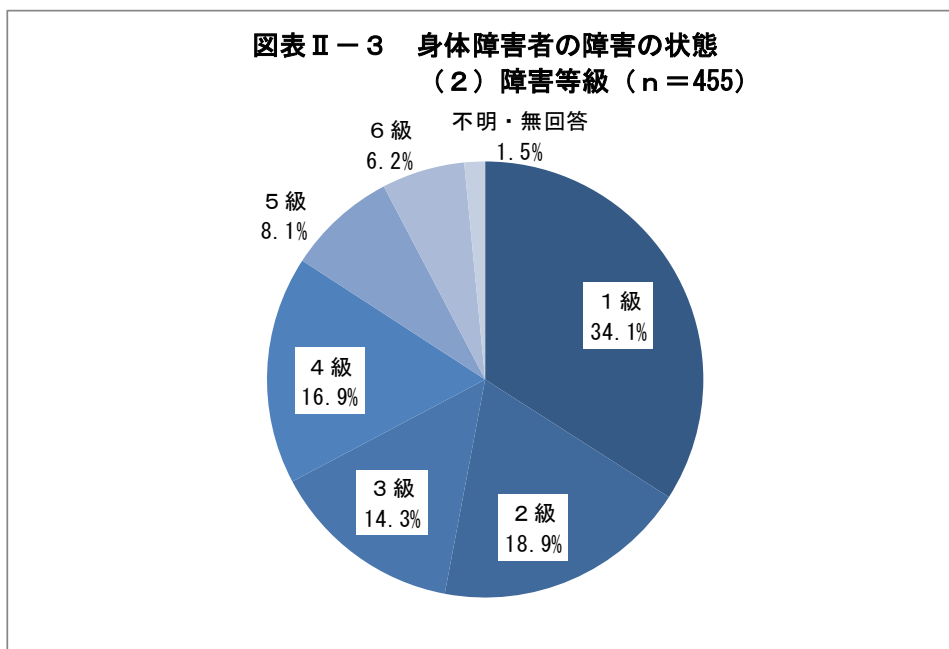
(2) 障害の状態 (問2)

身体障害者－(1)障害種別：「肢体不自由」は49.5%、「内部障害（内臓や呼吸器など）」は31.4%で合わせると8割を超える。以下、「聴覚障害・平衡機能障害」は11.0%、「視覚障害」は9.0%、「音声・言語・そしゃく機能障害」は6.6%、「その他」は6.2%である。

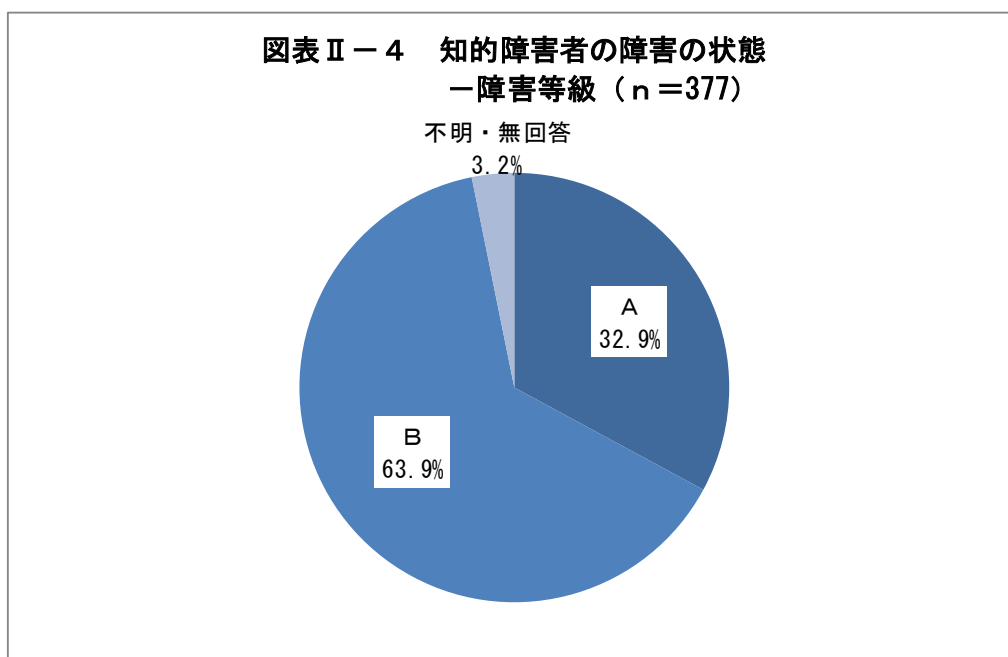


身体障害者－(2)障害等級：「1級」は34.1%で割合が最も高く、以下、「2級」は18.9%、「4級」は16.9%、「3級」は14.3%、「5級」は8.1%、「6級」は6.2%である。

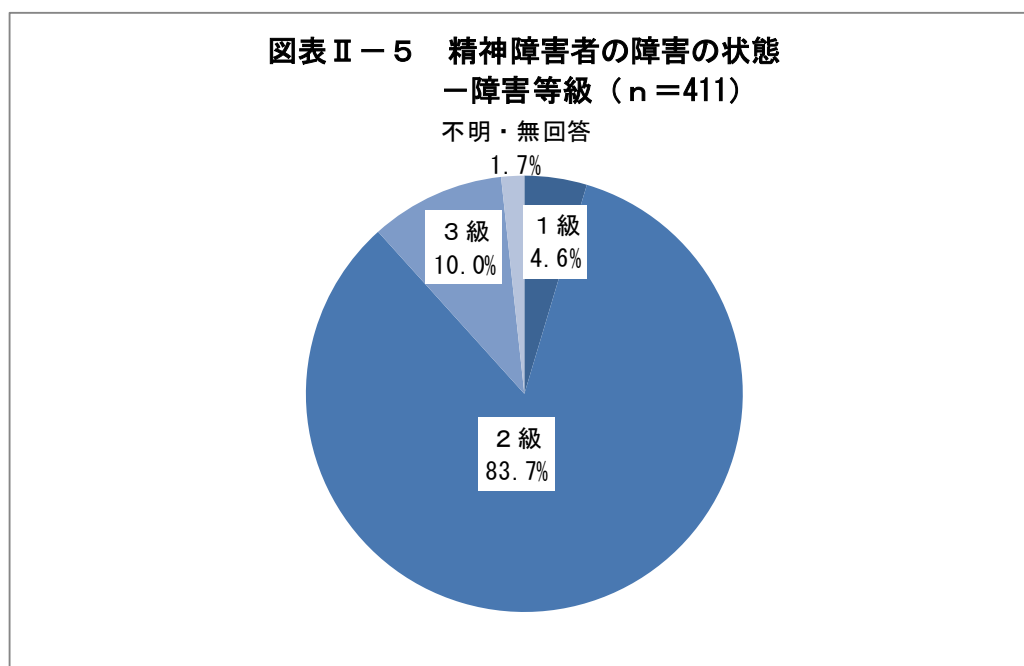
1級～3級と4級～6級の割合は、67.3%と31.2%である。重度者（1級と2級）と非重度者（3級～6級）の割合は、53.0%と45.5%である。



知的障害者－障害等級：療育手帳「A」は 32.9%、「B」は 63.9%である。



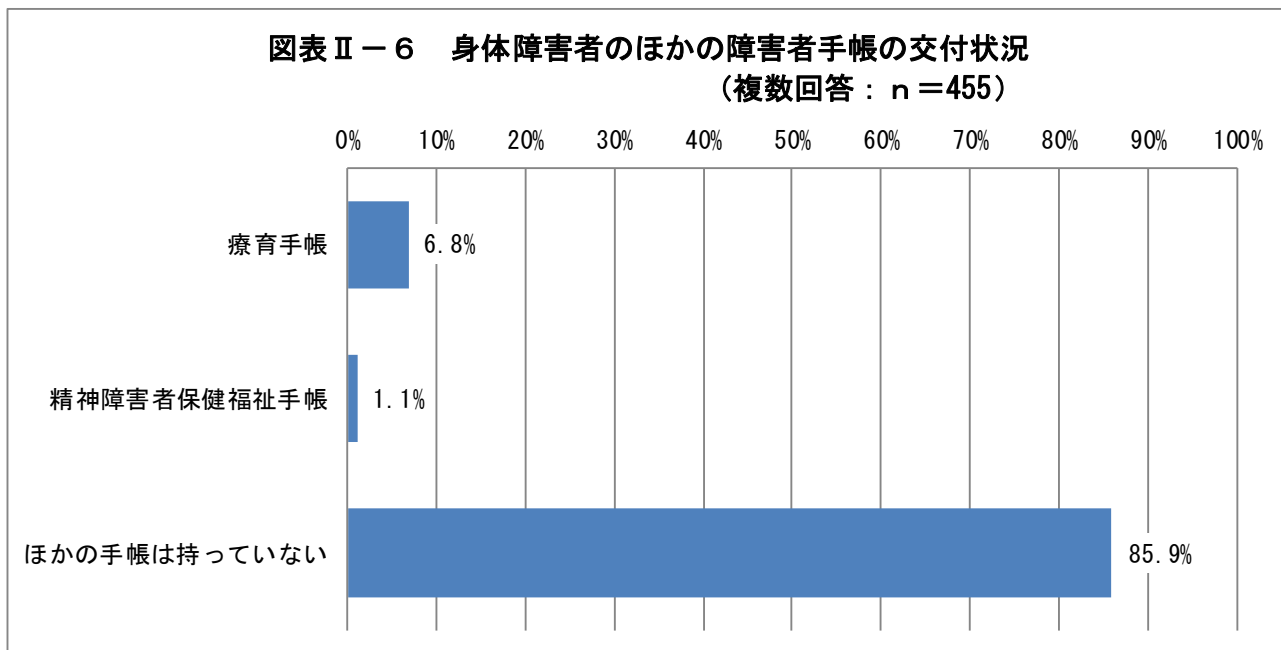
精神障害者－障害等級：「2級」は 83.7%。最重度の「1級」は 4.6%、「3級」は 10.0%である。



(3) 障害者手帳の交付状況（問3）

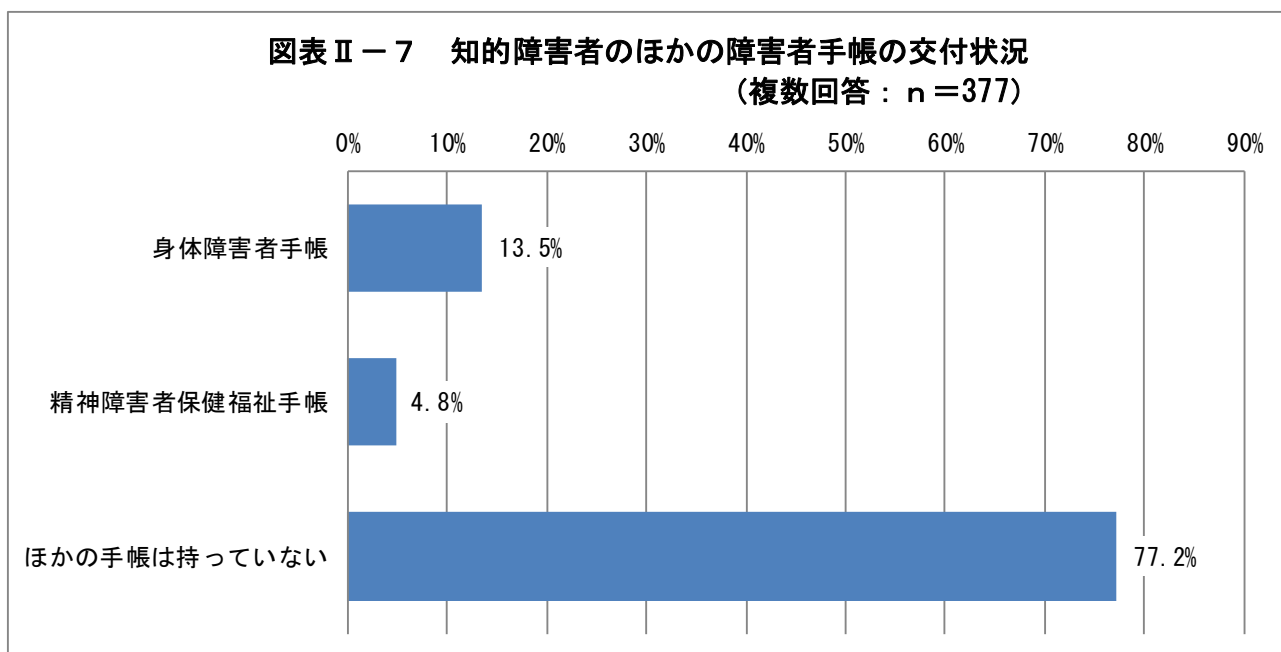
身体障害者：「ほかの手帳は持っていない」は85.9%である。

「療育手帳」と回答した重複障害者は6.8%、「精神障害者保健福祉手帳」と回答した重複障害者は1.1%である。



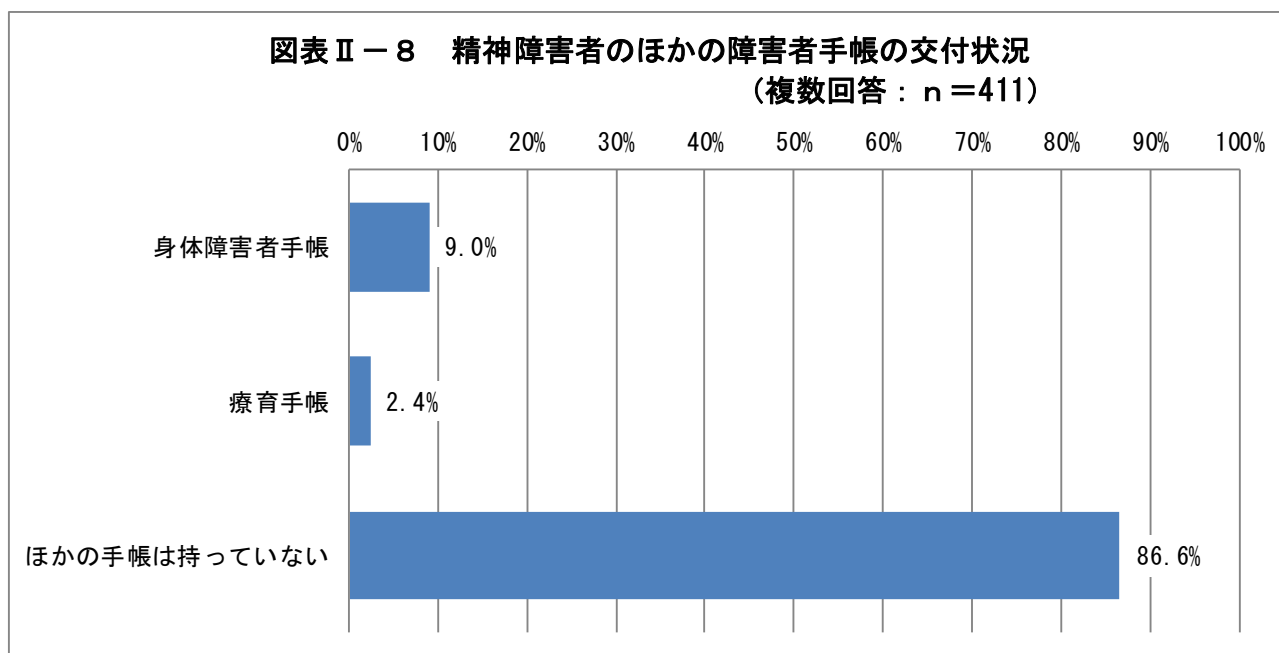
知的障害者：「ほかの手帳は持っていない」は77.2%である。

「身体障害者手帳」と回答した重複障害者は13.5%、「精神障害者保健福祉手帳」と回答した重複障害者は4.8%である。



精神障害者：「ほかの手帳は持っていない」は 86.6%である。

「身体障害者手帳」と回答した重複障害者は 9.0%、「療育手帳」と回答した重複障害者は 2.4%である。

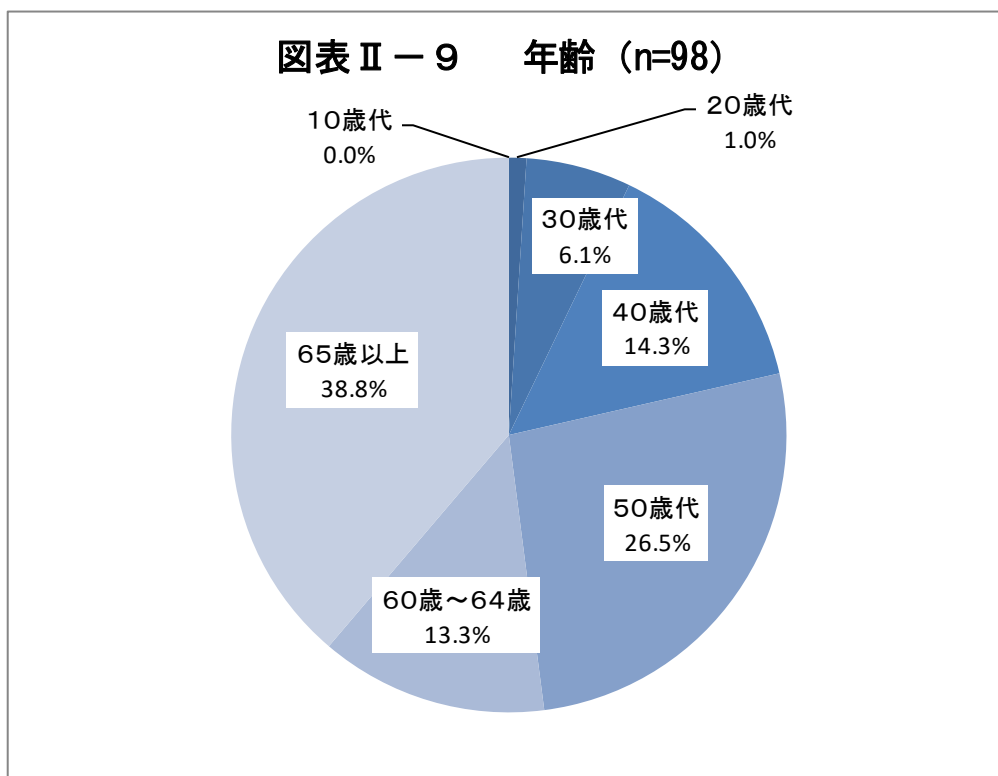


2 施設入所者

施設入所者調査の対象者（D票-障害者施設入所者）である回答者の属性（年齢、障害者手帳の交付状況、障害の状態）は、（1）～（3）のとおりである。

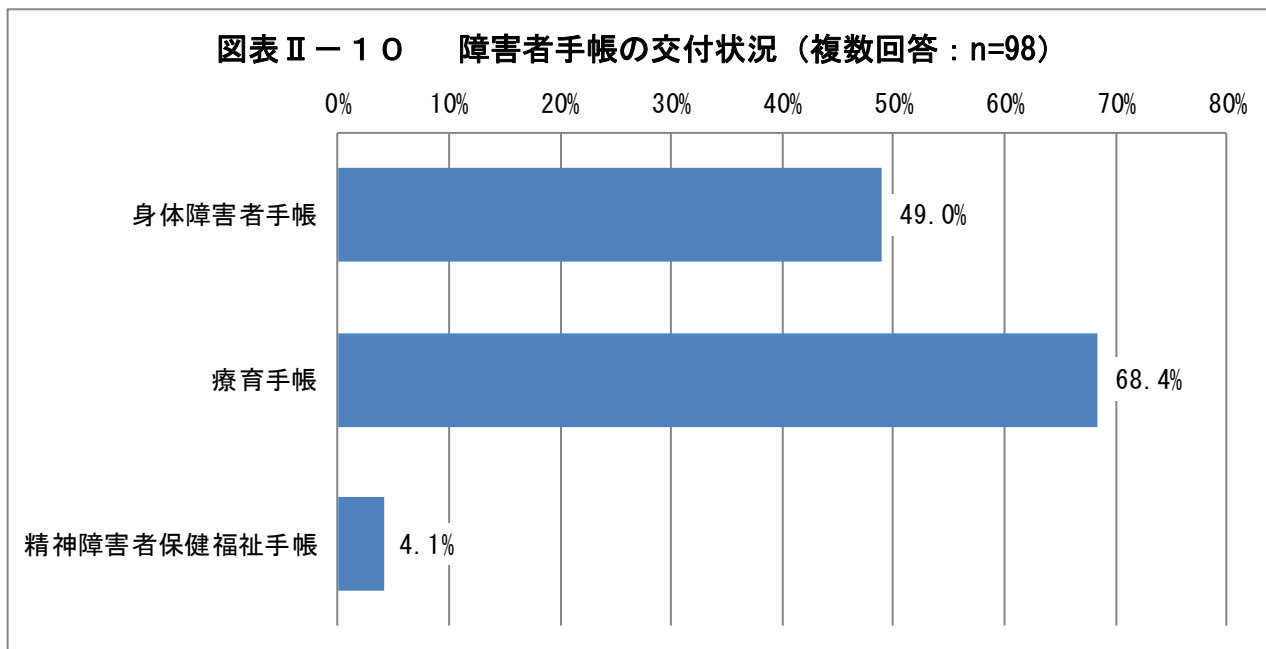
（1）年齢（D問1）

「65歳以上」の割合は38.8%と最も高く、以下、「50歳代」は26.5%、「40歳代」は14.3%、「60歳～64歳」は13.3%、「30歳代」は6.1%、「20歳代」は1.0%、「10歳代」は回答がない。



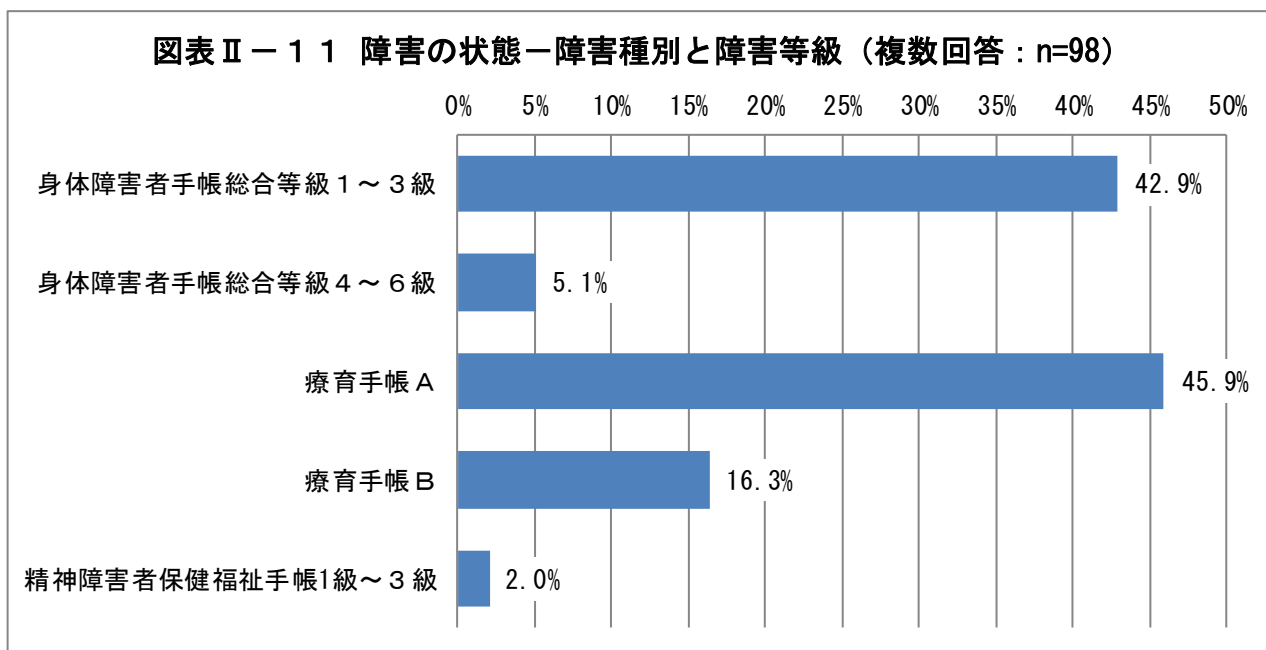
(2) 障害者手帳の交付状況 (D問2)

「療育手帳」は 68.4%、「身体障害者手帳」は 49.0%、「精神障害者保健福祉手帳」は 4.1% である。



(3) 障害の状態－障害種別と障害等級 (D問3)

「療育手帳 A」は 45.9%、「身体障害者手帳総合等級 1～3 級」は 42.9%、「療育手帳 B」は 16.3%、「身体障害者手帳総合等級 4～6 級」は 5.1%、「精神障害者保健福祉手帳 1～3 級」は 2.0% である。

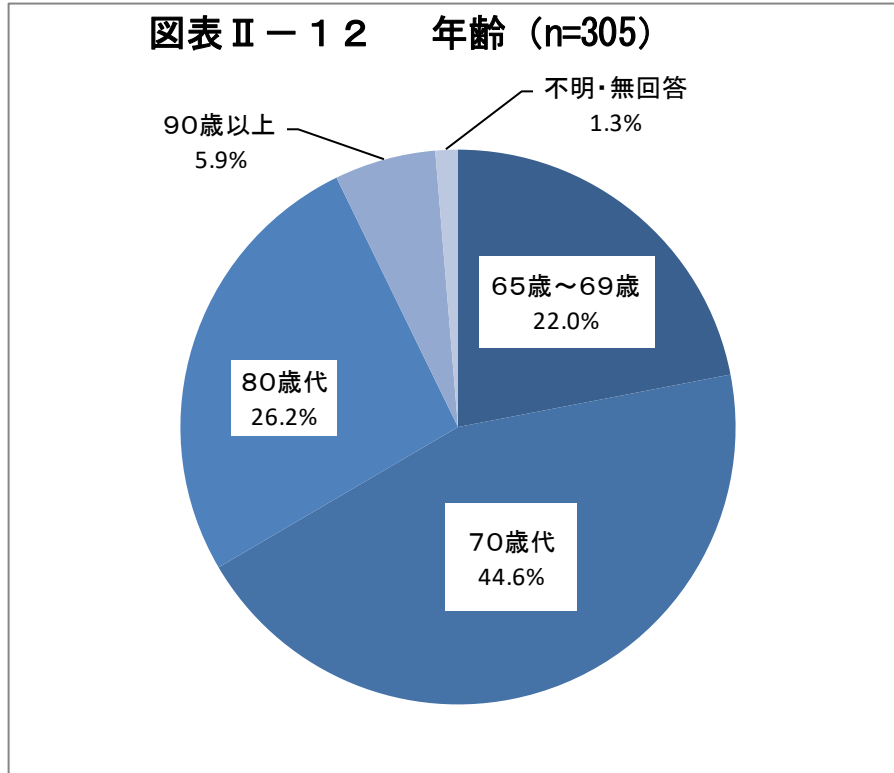


3 高齢者

高齢者調査の対象者（E票-65歳以上の高齢者）である回答者の属性（年齢、障害者手帳の交付状況、障害者手帳の等級）は、（1）～（3）のとおりである。

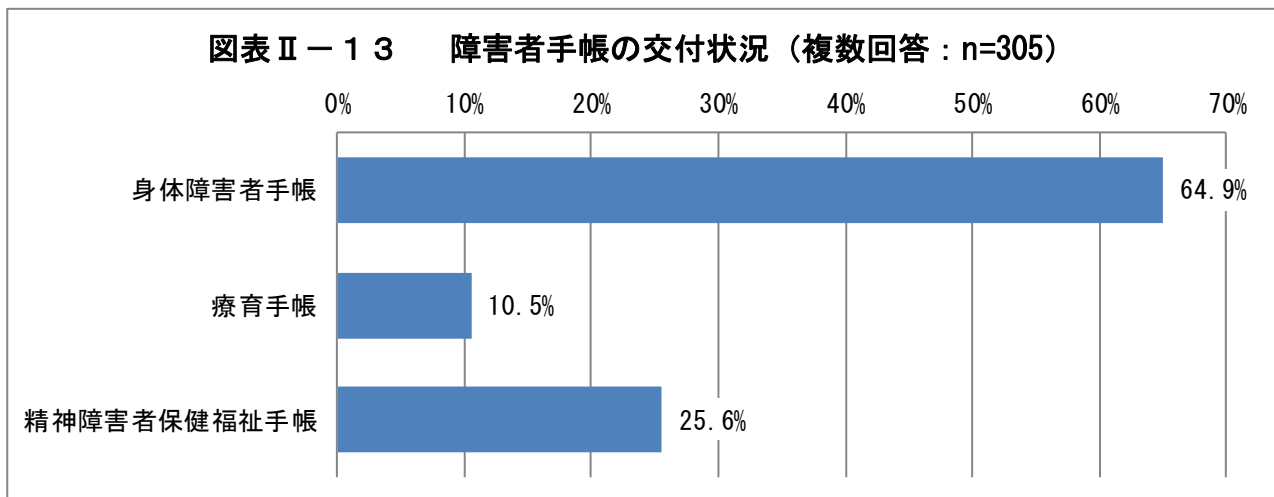
（1）年齢（E問1）

「70歳代」の割合は44.6%と最も高く、以下、「80歳代」は26.2%、「65歳～69歳」は22.0%、「90歳以上」は5.9%である。



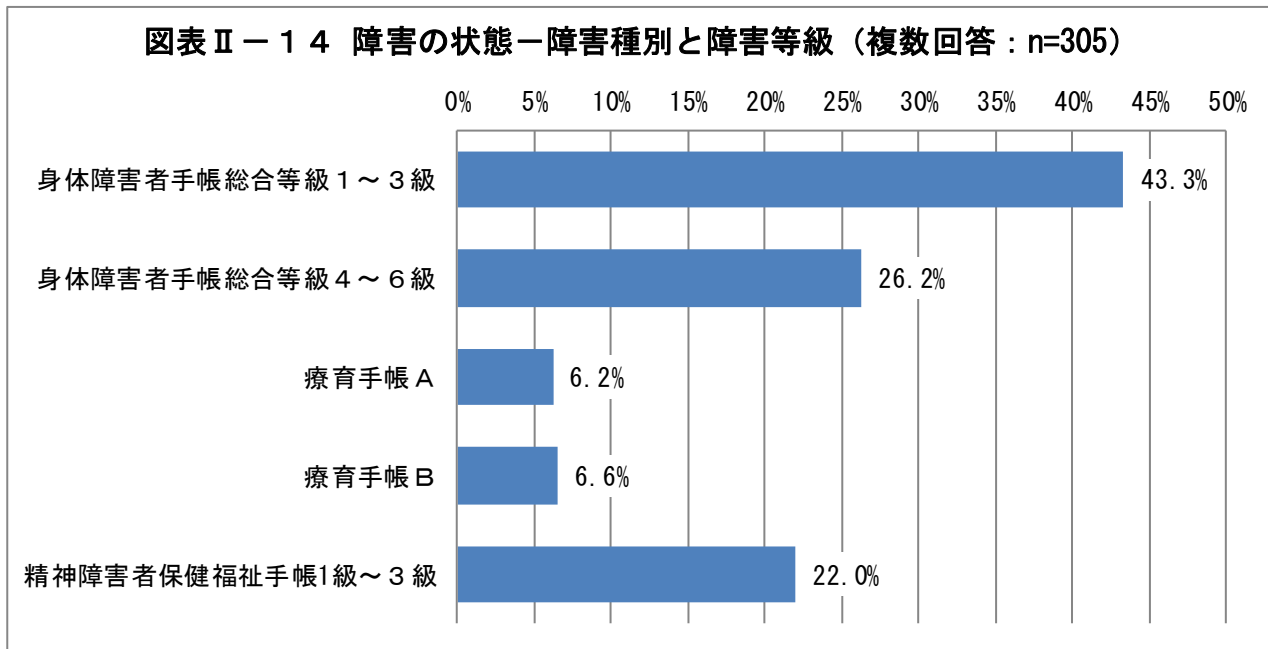
（2）障害者手帳の交付状況（E問2）

「身体障害者手帳」は64.9%、「精神障害者保健福祉手帳」は25.6%、「療育手帳」は10.5%である。



(3) 障害の状態－障害種別と障害等級（E問3）

「身体障害者手帳総合等級1～3級」は43.3%、「身体障害者手帳総合等級4～6級」は26.2%、「精神障害者保健福祉手帳1～3級」は22.0%、「療育手帳B」は6.6%、「療育手帳A」は6.2%である。

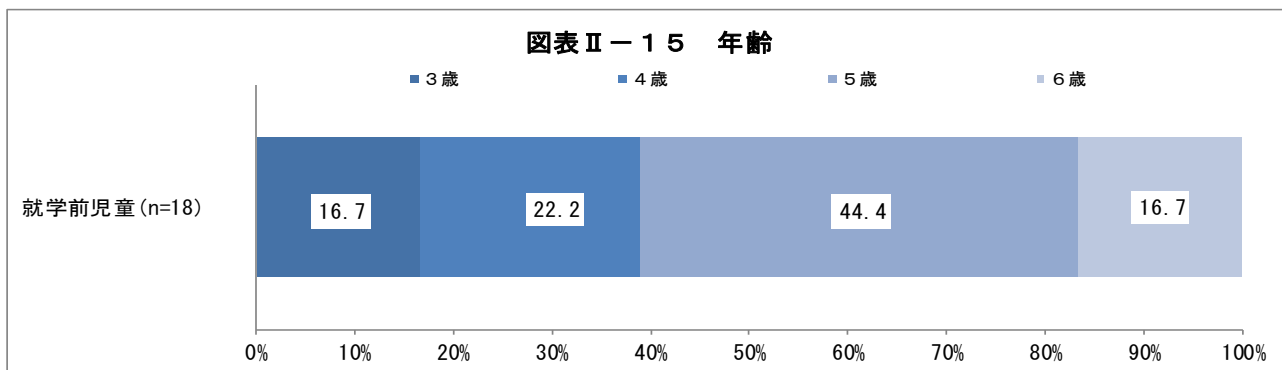


4 障害児

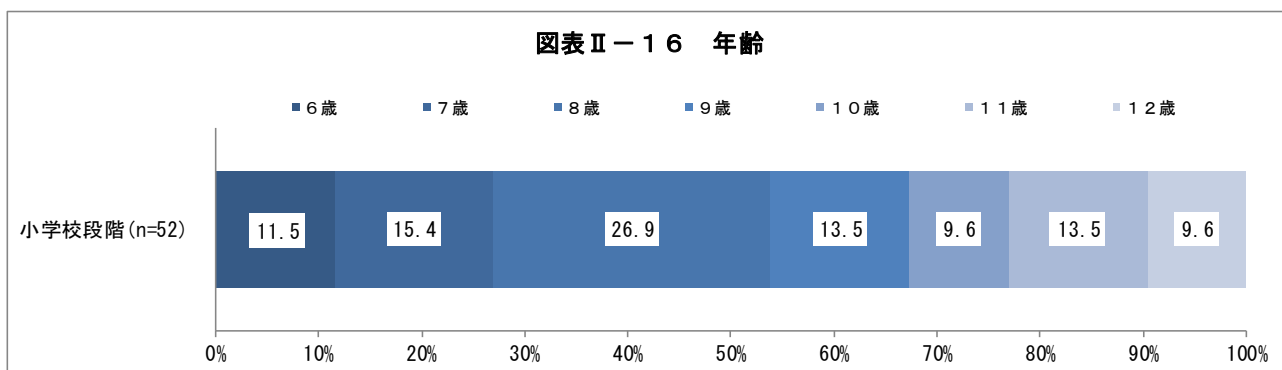
障害児調査の対象者（F票-18歳未満）である回答者の属性（年齢、障害者手帳の交付状況、障害者手帳の等級）は、（１）～（２）のとおりである。

（１）年齢（F問１）

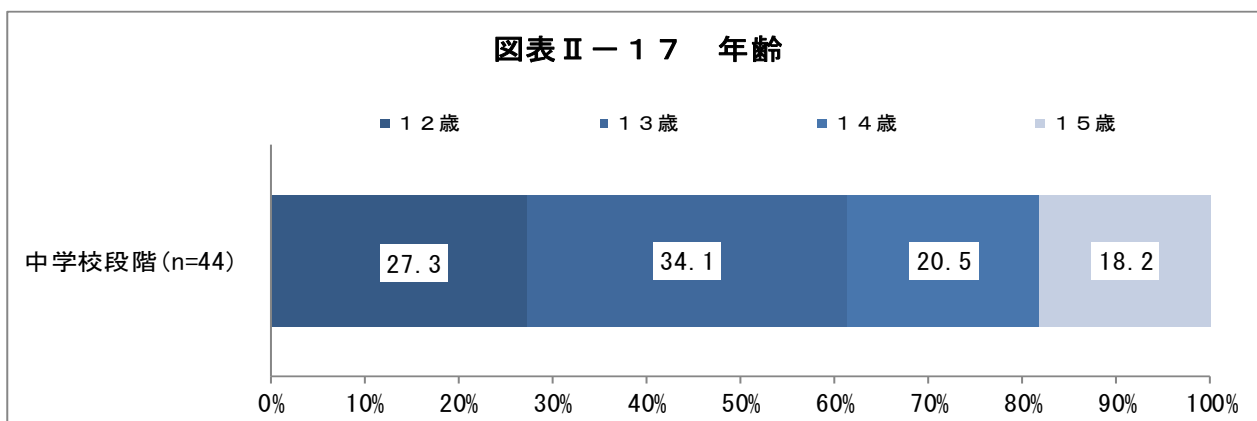
就学前児童：「5歳」は44.4%、「4歳」は22.2%、「3歳」と「6歳」はともに16.7%である。



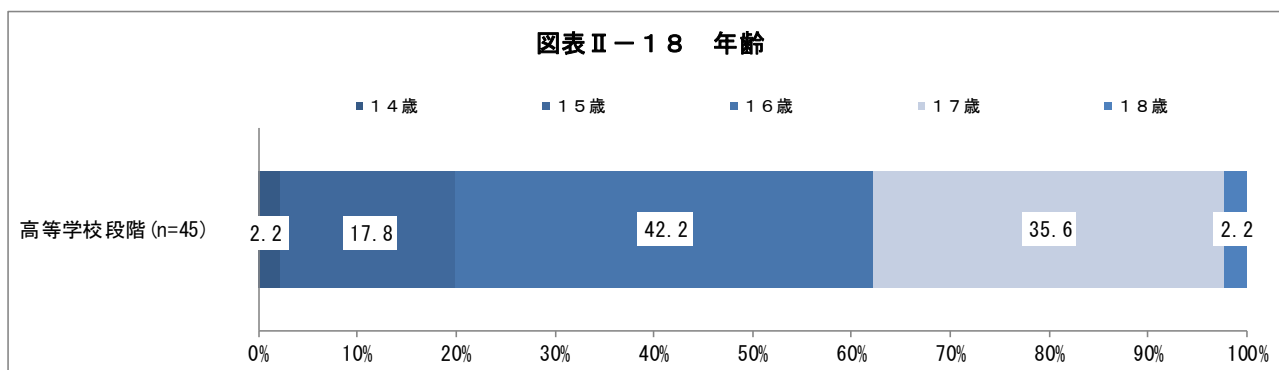
小学校段階：「8歳」は26.9%、「7歳」は15.4%、「9歳」と「11歳」はともに13.5%、「6歳」は11.5%、「10歳」と「12歳」はともに9.6%である。



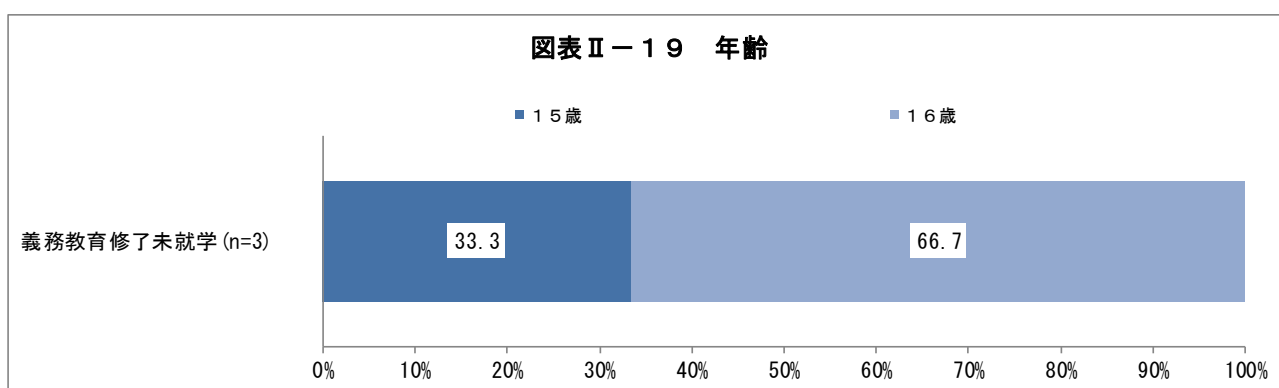
中学校段階：「13歳」は34.1%、「12歳」は27.3%、「14歳」は20.5%、「15歳」は18.2%である。



高等学校段階：「16歳」は42.2%、「17歳」は35.6%、「15歳」は17.8%、「14歳」と「18歳」はともに2.2%である。



義務教育修了未就学：「16歳」は66.7%、「15歳」は33.3%である。



(2) 障害の状態－障害種別と障害等級（F問2）

全体の傾向：「療育手帳B」は58.0%、「療育手帳A」は35.2%、「身体障害者手帳総合等級1～3級」は11.1%、「精神障害者保健福祉手帳1～3級」は4.3%である。

就学前児童：「療育手帳B」は61.1%、「療育手帳A」は22.2%である。

小学校段階：「療育手帳B」と「療育手帳A」はともに46.2%、「身体障害者手帳総合等級1～3級」は17.3%である。

中学校段階：「療育手帳B」は52.3%、「療育手帳A」は43.2%である。

高等学校段階：「療育手帳B」は75.6%、「療育手帳A」は22.2%である。

義務教育修了未就学：「療育手帳B」は66.7%、「精神障害者保健福祉手帳1～3級」は33.3%である。

図表Ⅱ－20 障害者手帳の交付状況（複数回答）

